

# 各ワーキング 令和7年度報告

## Ⅱ 学齢期の福祉教育を考えるワーキング

### Ⅰ 目的

教育機関と協働して『障害の社会モデル』をふまえた障害理解教育（人権教育）の授業パッケージを作成し、そのパッケージの普及啓発・活用を進めるための方法について検討し、調布市における障害理解のさらなる促進に繋げる。

### 2 ワーキングにおいて取り組む主要内容について

- ・『障害の社会モデル』をふまえた障害理解教育（人権教育）を実施する目的や意義，教育内容，教育方法について検討する。
- ・教育関係者の意見を取り入れながら，授業パッケージ（指導案，動画教材，ワークシートなど）を作成する。
- ・作成した授業パッケージの普及啓発の方法について検討する。

### 3 ワーキンググループメンバー(敬称略)

座長	谷内 孝行	(桜美林大学 健康福祉学群 准教授)
	高江洲 幸男	(当事者)
	佐々木 翼	(当事者)
	樋川 宣登志	(調布市立第一小学校)
	原田 勝	(調布市教育委員会指導室)
	毛利 勝	(特定非営利活動法人調布心身障害児・者親の会)
	木内 洋	(社会福祉法人調布市社会福祉協議会こころの健康支援センター)
	田村 敦史	(社会福祉法人調布市社会福祉協議会ドルチェ)
	野原 健吾	(社会福祉法人調布市社会福祉事業団 国領地域児童館・学童・あそびバ)

### 4 今年度の検討経過

#### 第Ⅰ回ワーキング

(開催日) 令和7年6月23日(月) 18時から20時

(開催場所) 社会福祉法人新樹会 空と大地と

(出席者) 委員9名 事務局7名

(内 容)

- ① 今年度の目的・方針・成果目標・年間スケジュールの確認
- ② 人権教育（福祉教育）の授業展開について意見交換
- ③ 人権教育（福祉教育）の授業で使用するイラストについて意見交換

## (主な意見)

小学校4年生を対象に授業教材（指導案、授業解説動画、イラスト、ワークシート、障害当事者講師のお話動画）の作成をしている。授業を受ける中で、「障害の社会モデル」や「障害理解」の考え方の視点にも繋げていけるようにワーキング内で検討している。

### ① 指導案について

- ・授業構成で90分の内容も検討していたが、児童の集中が保てないおそれがあるため、A（車いす編）とB（視覚障害編）を作成し、どちらを使用するかは、先生に選択をしてもらうといいと思う。A+Bの作成も進めていった方がいいと思う。
- ・「地域にさまざまな人が暮らしていることを考える」きっかけとなる教材として今回の指導案を活用してもらいたい。先生にはそういう視点を持って福祉や障害理解の教育の導入として使ってもらいたい。
- ・子どもたちの親が「障害の社会モデル」を理解しないと、子どもの困っている状況の理解もできないと思うので、親にも伝えていける機会があるといい。
- ・東京都教育委員会で作成している人権教育プログラムの内容に障害者の項目があるので、それをより具体的に、地域の実態に即した内容を落とし込み調布市版として作れると良いかもしれない。

### ② 動画教材について

- ・先生方に見てもらう授業の事前解説動画について、多忙な業務の合間で見やすさを考慮すると10～15分位が妥当である。人権教育プログラムの教材ができることで先生の意識も変わるかもしれない。授業をやる前に解説動画を見て先生自身の「障害の社会モデル」の視点も改めて考えるきっかけになってほしい。
- ・障害当事者からのお話については障害当事者講師養成研修を修了した方に協力してもらうといいと思う。

### ③ イラスト（ファミリーレストラン）の内容について

- ・固定のソファ席や配膳ロボットは車椅子ユーザー、肢体不自由な方にとっては不便なこともある。タッチパネルやドリンクバーも使いづらいと感じることもある。
- ・ドリンクバーは身長の子どもの小な子どもにとっては、高さやボタンなど使いづらさがあるのではないかな。
- ・一人の児童が全部気づかなくても良い。皆で授業しているので複数で意見を出し合えることが大切である。
- ・視覚障害者や高齢者などタッチパネルを使いづらいと感じる人も多いと思うが、発達障害（例えば自閉の方）など障害によってはタッチパネル式注文が便利な方もいる。誰かにとって不便なものが誰かにとって便利という可能性もある。そういった要素も盛り込んでもいいと思う。
- ・たくさん盛り込みたい要素はあるが、1科目だけの授業なので削ぎ落すことも必要。ハード面は沢山あるが、ソフト面は体験・対話を通して自ら気づく体験も必要と思う。

(まとめ)

今回のワーキングでは、授業で使用する教材を中心に協議を行った。今後もワーキング内での継続的な協議を行い、授業教材を作成していく。授業教材の一つである当事者の動画については、障害当事者講師養成研修を修了された方々に出演を依頼し、「障害の社会モデル」、「障害理解」などの視点を取り入れた内容での作成を行う。今回授業をうけるのは、小学校4年生が対象ではあるが、この授業に携わる先生の視点の変化や理解の深まりにも期待したい。